

テーマ：景気動向指数（2016年6月）の予測

発表日：2016年7月29日（金）

～C I一致指数は一進一退の足踏みが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○2ヶ月ぶりの上昇

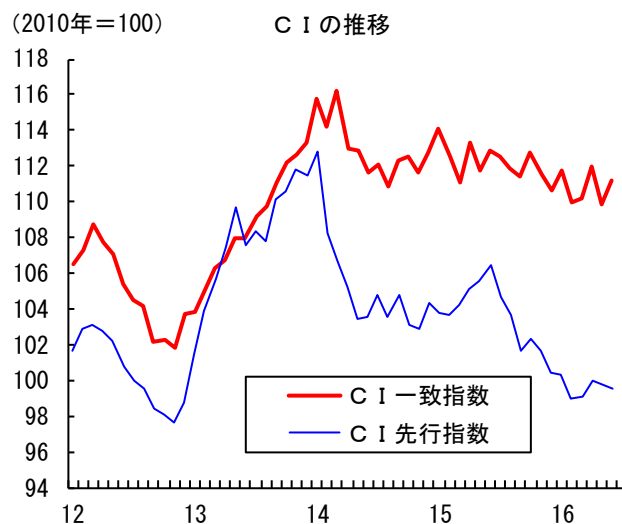
内閣府から8月5日に公表される2016年6月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.3ポイントと予想する。上昇幅は比較的大きいが、5月が▲2.1ポイントと大幅に低下していたため、均せば横ばい圏の動きである。C I一致指数は、引き続き一進一退の足踏み状態にあると判断される。6月の内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数など、生産関連の押し上げ寄与が大きい。

また、6月のC I先行指数は前月差▲0.1ポイントを予想する。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下していたが、足元ではようやく下げ止まりつつあるように見える。内訳では、生産財在庫率指数や消費者態度指数のプラス寄与が大きい一方、新規求人数や日経商品指数、東証株価指数などがマイナス寄与で、全体では微減となったとみられる。

○ 基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」であり、足元の景気が停滞していることが確認できる。

基調判断が「改善」に上方修正されるための基準は「3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」である。C I一致指数の3ヶ月後方移動平均の値は、4月分が+0.06、5月分は▲0.03のあと、6月分は+0.33になる見込みだ。5月分は速報値段階では+0.17だったため、仮に速報値のまま変化がなければ6月分で「改善」へ上方修正されるはずだったが、5月分の3ヶ月移動平均の値は改定値で▲0.03に下方修正されてしまった。そのため、6月分での基調判断の上方修正は実現せず、「足踏み」判断が維持されるとみられる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2016年6月は第一生命経済研究所による予測値